主從心得草四編

下

口 9
1540
8

門 ロ仁9
1.540
8

主従心得草四編下　目録

一 不忠の人は。主人の大事起りたる時は。ひとへに不義を働く事
一 忠義の人は。主人の大事起りたる時は。大はふ力とある事
一 不忠の人を用ゆる時は。主人の身緒を不如意ふまる事
一 民のあんきを。救はざるべし。民の父母といひがたき事
一 不忠不義の者は。民ゑ災ひを致し。後ゑ主家を亡ぼす事
一 知行所より正月の門松。三月の蓬等を持運ぶ事　五丁
一 よき臣下を用ひて榮へ。わるき臣下を用ひてほろびし事　六丁
一 燕の召伯民をいたわりし故ゑ。佛神の如く敬ふ事　十一丁
一 舊把簡相如大忠の事　十四丁

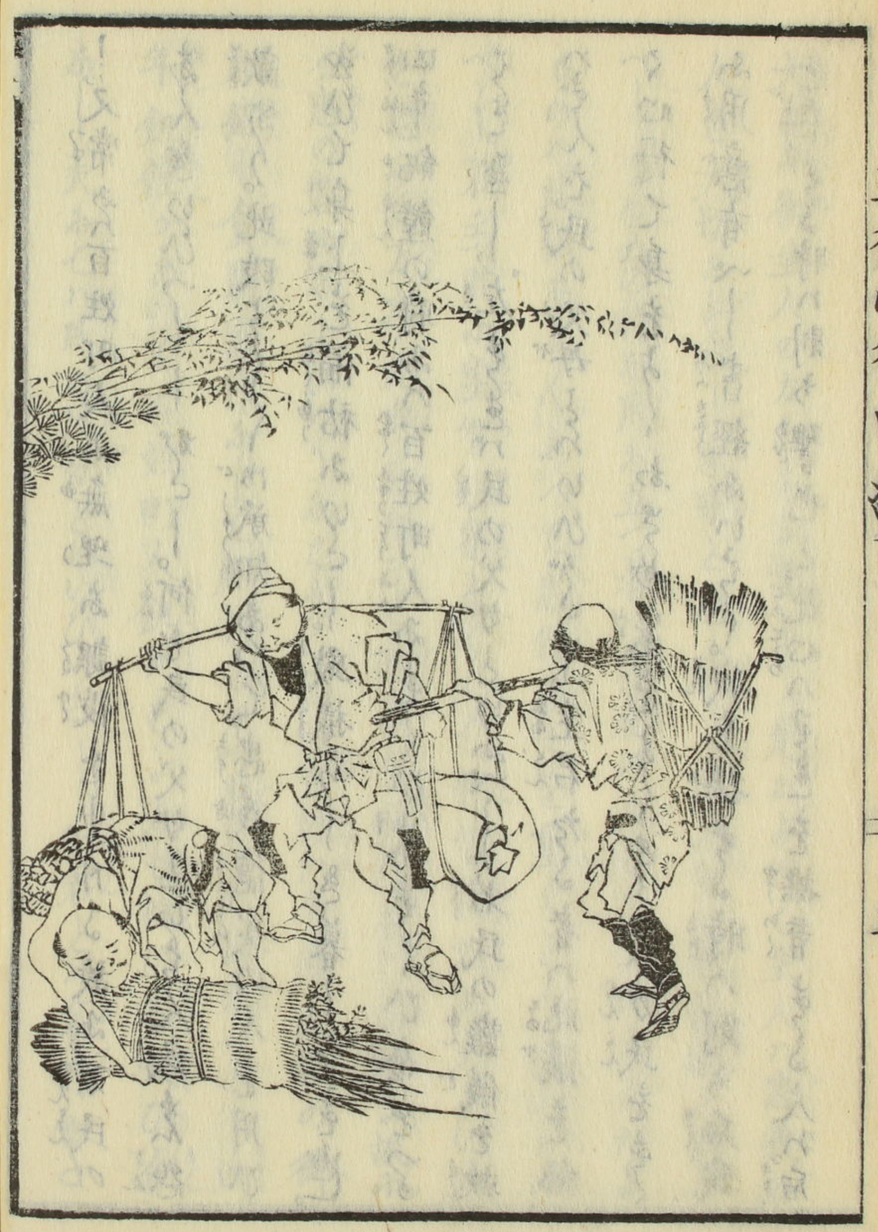
生得の善人生得の悪人あり〳〵事　十七丁
今の世も聖代のあるべき事。安〳〵とりふ事　十九丁
賢孝行賢忠義あり。天より福徳を下さるとりふ夏　廿一丁
大守賢孝行あ。御ゆうびを下さる〳〵事　廿二丁
賢善あり福徳あり。賢悪ハ大罪とあるとりふ事　廿三丁
一切の誓古事ハ。初ハ師匠の真似をして。後ハ師匠とする夏　廿八丁
大悪人似せ孝行をして。後ハ誠の孝行人とあり〳〵事
姑女と大中ゆるのよめ。似せ孝行をして。後ハ大孝行とあり〳〵事

主従心得草四編下

○又國家を治るあた主人一人ゆえハ出来ぐさし。忠信義士を用ひて國家をよく治むべし。不忠不義の人ハ。何万人あり〳〵とも。何の役ゆも立ぐさし。唯万民をくるしめて主家の災ひとあるべうりあり。又主人の大事起りたる時ハ。已まづ身の為だうりを思ひて主人の身の上の事を少〳〵もかまはぬ。唯已まの〳〵利せんと思ひ主人の難渋ゆ乗じて不忠不義をたくらむ者あり。禄盗人養ひ損あり。深くをそるべし。又忠義の人ハ御主人の御大事起りたる時ハ我身の事ハ少〳〵も思わぬ。たゞ御主人を大事と思ひて。

大ひふ御主人のカとある者あり。是ふよりて主人ハ忠義の人を大切ふもべし。家来と思ふべうらぶ。兄弟一家親類と思ふべし。まさうの時ふ用ふ立つ者ハ忠義の人なり也。主人たるものハ此儀をよくもつて。忠信義士を重くとりあつうふべし。若主君ふ実智明察あるゝんだ。邪智佞奸共をよい人と思ふて。万事此衆を用ひて。政事を取行あるもむる故ふ。ふ忠の者共ふよいやうふさまて。國の百姓ハ勿論主君の御身緒も貧窮難儀ふして。殿様とふ暮しハ出来ゞさし凶年飢饉があつて。百姓町人飢死するとも。救ひ米救ひ金あし。夫ふてハ民の父母とハいひゞさし。主君とハ名付がた

し。又常ふハ百姓町人ふ無理ふ課役を申付る故ふ。万民のあんぎいひつゝしがたし。何ど民の父母といちん。民ハ怨敵ふ。此段よくゝ承知あつて。忠義徳実の人を用ひあひて身上を福祐ふいたし。殿様らゝき暮しをもゝ。凶年飢饉の時ふハ百姓町人ふもくひ米もくひ金をつろもをゝ。左もなくバ民の父母といふべし。若民の難儀を救ハぎんで。民の父母ゝハいひがたし。主君たる者ハ此儀を能く心得て身をよくゝあらめ家をよくもつのハ万民をもつふ用意有べし。書経ふいちくゝ。我を撫する時ハ則ち后我を虐する時ハ則ち讐也と。此心ハ人を撫育する人ハ后



近き知行所の百姓共正月
の門松三月のよもぎ五月の
ちまりぶ柏の葉新米のやき
米たき木迫は地頭へ持ゝと
ぶ圖

とゝのゝめ奉る。ものを虐さぜる后ハ讐ぐさきありといふ事あり。人の主君たる者ハ。此儀をよく心得て。急度民をなのもをむべし。又御大名大家方ハ。多く家来共の悪心邪欲ハよつて。君の御身緒をもろく致し。御国の百姓町人ハあんぎをさせる事なり。國家の災ひ是より大ひなるハあし。急度せんぎをして あきやりハよべし。百姓ハ子供ハ金銀を遣ハも。町人の大家ハ多く。家来共ハ身緒をもるくさもて。あんぎをする家あり急度機を付て。悪敷子供家来けんぞくハ。早く追ひちらすべし

大平國恩里談上ハ。民をなのもをまざる武家ぐさハ皆

災難ハあひもふ。百姓をもべたげ年貢課役をよけいすりとりもふ。武家方ハ段々びんぼうとあり。後ハ家を失ひ身をやろぼしハ。是ハ其筈あり百姓どもハ晝夜ちん労を致し夏のあつりもいとまぞふ。なのせをもぐりて耕作をいたし。冬のさむいもいとまぞふ。めり収めふこもふし。叔をもろ米ハいこし。御年貢の遲滞ぜぬやりハ心がけ。上納いたも迫のや紙をもりハ中々ことぞふハはくくしぐさし。其ハんぎをはぞんじあく有がたいとも思ひもハぜ。取べき筈のやりハ思ひ盛末ハしあふハ。御家の為ハよろうぬ筈ハり。又江戸迫在の知行所ハ。村方より正月の門松。三月九

よもぎ。五月のちまゆうぶ。あしたの葉新米のゆき米等迫も差上。又山林のある村ゆへハ。たきぶ迫持ちとび。御用を達し御家のためゆある百姓どもを。あろうゆ思ひ申ふハ。人の深切ところ〳〵をたりたまりぬといふ者あり。夫ゆへに天道様ゆ憎まれて災難ゆもあい。貧乏ゆもあり申ふ筈也。たとひ遠方の知行所たりとも。道理ハ同じ事あり。現ゆ門松よもぎたきぐ等ハ。もら申ふ筈ども。知行の内より出ることあるべうらゞ。去御もと本様ハ。仰せふハ君子ハ民の父母ありとりふ時ハ。日本國中の百姓ハ皆御上の御子也。そ是を此方のゆうある者ゆ御あづけあさ是候得ど。あのゆうの三百石の知行の百姓ハ。御上ハ御子を預り申して居るあり。御父母様の御不便ゆ思召ま御子をバ疎略ゆしてハ。親御の思召ゆ叶ぬ筈あり。民といへど百姓の事たりのゆうあ是共四民といふて。武士も農人も職人も商人も皆民あ是ば。地頭も百姓も皆兄弟あり。ゆるを是べたげ苦しめるハ。甚こゝ後へちがひ也。其内ゆ少々の高下あ是ども。なふどり疎畧ゆまべきゆうあしと仰せら是たりとなり。誠ゆありがさき思しに召あり。是ハ御大名様方をもゞめ地頭知行たりの衆ハ此心得急度ありたき者也。此御心得ある人々ハ天運ア

叶ひて御家ハ繁昌万々歳也○うけつぎ〳〵國のつうきのあい
もあ〳〵めぐまぬ民ハめぐまるゝとハの。御詠もある思し
召めやありけん。うゝ〳〵まことのたゝしの御父母あり。ゆゝしゞ
たゝくも尊もあり〳〵奉るゝ爲し

○劉向新序ハいはく。堯舜ハ九賢あり。是を崇舉し
て海内大ひふ康し。文王武王ハ大公望閎夭を用ひ。成王ハ周
公召公ハ任じて海内大ひふ治まる。越ハ裳譯を重んじて。
祥瑞並びくるついハ千載を安んぜ。皆賢ハ任ぜるハ依て
ハ。賢臣あけまて。五帝三王といへども。ひつてあとるこゝあ
たゝ。齊の桓公ハ管仲を得て。諸侯ハ霸とある管仲を

失ふ時ハ。危乱の耻辱あり。虞ハ百里奚を用ひぜして亡び。
秦の繆公ハ是を用ひて霸王とある。楚ハ伍子胥を用ひぜ
して破ぜ。呉の闔廬ハ是を用ひて霸とあり。夫差ハ用ひぜ
のゝ。ゝあ一を殺して而あて國ハるゝ亡ぶ燕の昭王ハ樂毅
を用ひて。疆齊のゝぐを破り七十城を屠る而るハ。恵王ハ
樂毅をいとい〳〵てゝうため代るハ騎刧を以てゝ。兵立所
ハ破ぜて七十城を失ふ。父ハ是を用ひて起り。子ハ是を
用ひぜして亡ぶ。其事見つべし的々然として。黒白のごし
秦ハ叔孫通を用ひぜ項王ハ陣平韓信を用ひぜして。皆
滅亡ぜ漢の高祖ハ是を用ひて大ひふ起る。夫賢を失ふ者

ハ其ものゝ用ひかくの如し。賢を用ゆる者ハ其さいをいかくの如し。人君たるものハ賢を求めて以てらづうらのたもけともべし。天下國家を奥を事たゝごゝろをさまぐごとし又賢を用ひても然らぬといふ者ハ所謂賢といへども。まことの賢ふハあらざるゞ故あり。あるひハ又賢者をして不肖者と共ふ議り。智者をして。愚者とたゝかゝしめバ隔藏せらるゝ所以あり。智者と愚者とハ。千歳あるべきる所以の者あゝハなるひハ是ふ似て非あるもあるべバ。中々愚者のあるところふあらぬ。唯智者のごとく是を考る。又賢臣を考らぬ用ひもして禍敗ふ及ぶ者數多ありて。一々記しがたし。然ども其根本ハ唯是上ふ立人の不智不明ふして善悪邪正の辨別ふき故ありとなり是ふ間ちがひ。已もゞ不智より。數万人ふあんぎをうけ。御先祖の大功を潰し。已もも末代迄悪名を残もハ残念千万あり。何卒昔しの聖賢ふあらひ智仁勇ある人を擧用ひて。万民を泰山の安きふ置べし。是大功あり又智者のまることと。愚者のまる事ハ。千歳の昔しより知もぐる者あり。智者と愚者と一所ふ物をあきまむる時ハ。其仕方大ひふ相違して。とゝのもぐる者あり。愚者ハ已もゞ愚を考らぬ我慢ふして智者のいふ事をきゝぐる者あり。是を考い

てきうせんとなもべ。爭ひとあつて。又ものいひを引出を事あり。智者も是をいうんともする事あり。狂人は狂人とあらむ。酒の醉人は酒の醉人とあらむ。愚者は已が愚ある事をあらむ。此故ゑ智者ざるを用ひて。愚者はあるゑも用ゆべらむ。若用ゆるべ功あきのこあらむ。大禍を引出もとあるべし

○論語四ゑ孔子のいはく。道同じからざるべ。相為ゆ謀らずとあり。此心は道同じからむとは。君子小人善悪邪正の類あり。謀るとは談合もる事あり。然もども君子と小人とは。了簡同じからざる故ゑ是は善是は悪と

ゆける事の談合が出来ぬといふ事あり小人は善悪邪正をあらもも決して相談は出来ぬからして用ゆる事あらもといふ事あり。又君子と君子とは心が一致あて居る故ゑ是とは相談あて國家をよく治むべし。智度論三十三に了いたく無智の人は一切の成敗を知らむ。何況や微妙れ深義をや。たとへば無目の人溝坑を知らむして落ちるひは非道ゑ入がごし。無智の人も亦かくのごとし。智恵のまあとあきが故ゑ。邪法ゑ愛着して正見をうけむとあり。是ゑ相違ゑし無智の人は一切の損徳を知らば成敗といふて物の成就もると敗もとを知らば。よいと

思ふてもる事ハ。皆悪しきあり。いちんや奥深き道理ハ猶々知らざるあり。たとへゞ盲目のよき道ハ見へとも知らぬしてみぞ川へ落て。あんぎをいゝし又ハ死ぬも至るやうな者あり。無智の人も。又あくの如し。智恵のまあに ぶあき故ふ。邪法をよいと思ひ。正法を知らぬ終ふを福徳を失ひ。身を亡ぼ。無智邪見の人ハ我身の滅亡ふ。ましてや。況や万民を治むる事を知らんや。若無智の人を用ひて上位ふおいて。民を治めむる時ハ。悪を下へ流ぶをといふ者也。是ふもぎたるなやまりあし。下民の大害此上ハある間うらぎ

○孟子ふいはく不仁ふして高位ふあるハ是民ふ其悪をおとこをありとあり。是ふてよくさとるべし。何卒仁賢の人を用ひて政事をあさしめ。万民を安んじ。善を下へ及ぼしもべし。諸民のよろこび此上ハなる間うらぎ。是ハ御政事ふなのづる役人衆の事とたゝり思ふべのらぬたとい一村一軒の主ぶたりとも皆かくのごとし。身をおさめ家をやぶりあを妻子けんぞくふあんぎをうけ。路頭ふ迷ハせるハ主人の無智仕方のまろきより起りたる事あるべ。是家内中へ悪をあゞもといふりのうり。大ひふ恐るべし。何とぞ人々家々の政事をよゝして。妻子けんぞくふあんぎをあ

けぬゆりハまへし。是主人第一の心がけあり。又孟子ハいはく
民ハ災ひもる者ハ堯舜の世ハいまだとなり。堯舜の世
ハいまざる人ハ。今の世ハもいまざるし。然らば世界中ハ居を
りどころあし。上ハ立人々ハ此ことをよくわきまへて。仁義を行
ひ真直なるちうらひをして。万民を泰山の安きハおく
仁義を行ハ大善ハして。安心の大宅なり。不仁不義を行
ハ大悪ハして君臣ともハほろぶるの法あり。不仁不義ハ
本源ハ私欲我身勝手より起る事なれば。此私欲身勝手
をやめて仁義を行ひ万民をよく養ふべし。万民をよく養
ふべ其人まあちち堯舜あり。民の尊む事佛神のごとし

主君たる者ハ此儀をよく心得て。民の寶父寶母とあるに
○詩経ハいはく。蔽芾たる甘棠剪ることなかれ。伐ることな
かれ。召伯の茇しゐとなり。此心ハ燕の召伯といふ賢人なり。
ちげりたる甘棠といふ大木の下ハやまらひて。善政を行ハ
ひ。民を守護し。よく養ひしゐの木たるハよりて。民百姓ごと
の木をきらびハ。大切ハしゐて置しとあり。万民其徳を慕ひ
て。今ハ御祭りをもて敬ひ貴び奉るとあり。善政を行ひ
ハ殿様を万民がうやまい大切ハまる事ハくのおとし
主君たる者ハこの儀をよく心得て。万民を寶子のごとく
ハ思ひ慈悲をいとまべし。さまべ万民ハ佛神のごく

ふ思ひて。うやまひ奉るあり。孟子のいはく。万乗の國。仁政を行ふたぐ。民のよろこぶこと倒懸を解ぐ如しとあり。倒けんをさかさまといふ。さかしまにぶらさげたる人をゆるしゐどきて。助ける事あり。あんきなる大ひあるをゆるさるて。甚よろこぶあり。さまのあり。仁政をよろこぶ事かくのごとし。大功徳ありて。福徳の来る道あり。國々村々家々ありて。仁道を行ふべし。又孟子のいはく。三代の天下を得るハ。仁を以てあり。其天下を失ふハ。不仁を以て也。國の興廢存亡まる所。以の者も亦然りと。此心ハ三代とハ夏殷周をいふ。禹湯文武ハ仁を以て天下を得。桀紂幽厲ハ不仁を以て天下を失ふ。仁

不仁の存亡興廢天地の違ひあり。此儀をよく心得て。仁を行ふべし。天地の間ふ。仁を行ふほど大徳ハあゝ上下共ふ人たる者ハ行ひ絶ばあらぬことあり。仁を行あへバ天下ふ敵あゝしといふ事を深く信ずべし。堯舜禹湯文武ハいつでも善人の手本に引出して。四千餘年の今ふ至る迄賢王聖主とゆめ奉る。又桀紂幽厲の四人ハいつでも悪人の手本ふ引出さるゝ憎まるゝて。四千餘年の今ふ至るまで。悪名を流しあふ。慎むべきの第一也。仁不仁ハ天地の違ひあり。主君たる人々ハ深く考へあへ

○孟子のいはく。仁賢を信ぜざるバ國空虚也。礼義ふ

燕の召伯丼とうとりの木の下ゐ居て善政を行ひし故ゐ百姓共うやまい居る圖

乱時ハ上下乱る。政事あき時ハ。財用足らぎと註ゐ君
仁賢を用ひざるもこバ國ありといへども空〳〵ものて人ゐ
きがごとしたとへバ家ゐ荒ものあきが如し。直ゐ破倒ものへ
し。礼義あき時ハ貴賤上下の品乱ものて國家治らぬ政
事法度あきとものハ財用常ゐ不足あり。政事法度ハ上下
の分ゐ隨ものつてものを用ゆる事あり。此三ツハ國を治るの
大要あり。中ゐも仁賢ハ其本也。仁賢あき時ハ礼義も政
事も皆其道ゐ行らぬ。其宜しきゐ叶ぬ是ゐよつて
仁賢の大入用を知るべし。又いまく不祥の実ハ賢を
弊ものを者是ゐ當るとあり是ゐ相違あし。人の賢をゐ

くしと君へ申し上ぎる者ハ不祥不吉の第一也。仁賢の
よい役人あき時へ。万民のゐんきいひつくし〳〵万民
のゐんきが順て主人のゐんきとあるあり。是ゐよつて
諸國ゐよい奉行を置て万民を我子のごとく思ひて
安んぜべし。忠信義士をして民を治めものめば。君臣万民
共ゐ安泰あり若佞奸不忠の悪人ゐ政事を申し付
ゐば。上下共ゐ大難儀あり。又賢者を讒言して己をぞう
り用ひらもん事をたくゝ。主君万民の難儀ハ少しも
あまるもの。上下の大災ひあり。又忠信の賢人を用ゐも
ば。上下共ゐ安泰也誠のよい臣下とゐハ我身の為も

少しも思ひたゞして。唯主君の為万民の為を思ふて我身の得手勝手ハ少しも除。昔し晋の文公といふ大王ハ舅犯とゝふ臣下なり。是ハ問ふやうハ西河といふ所の奉行ハ誰をあしたらバ其所の民悦ぶべきやとありけるバ。舅犯答へていはく。虚子美といふ人を遣ハさるべしと申上げるなり。帝聞しめし召て其虚子美ハ汝ゞと中あしき者ゆへハあきうとのゆへバ。舅犯答へていはく。虚子美と某しと中のわるきハ私事也君ハ西河の奉行とあるべき人をたづねゝ。ゆゑ他とあつて中あしきとてよき人をあくさんや此故ハ仁智あるよき人を遣はして君の御為ハ為ゝるべき事と存じ奉るバ

なり。君も御涙を流し其忠義を感じ給ひ則ち虚子美を西河の奉行ハあしゝゆへ。虚子美是を聞てもゝ舅犯ハあいて。禮をなしゝゆへ。はゝく貴公ハ我偏執あゝまちをいはゞ。君ハ勧めて西河を西河の守りとあしゝ事のわるがさよと申しゝ也。舅犯ゝいはく其方を勧めて西河の守りとあるゝハ。君の為万民の為也。私しの恨ミを以て君の為万民の為ハあゝる事を妨たげんやとゝいへり。是皆君の為天下の為ハ私しの仇を忘れて天子へ申上げて。よい役儀ハ

まるとゝ誠の忠義ゐしてよい臣下とりふべしゐゆうゐ人
い國の寶天下の寶あるべし

○昔し燕の趙王の臣下ゐ藺相如廉頗とて二人の軍
さ大将ゐり中ゐも藺相如ハ勝をたる大功あつて廉
頗将軍よりも上座ゐあり。廉頗是を怨てていたく。
ゐをた國ゐ大功あり相如ハ徒ゐ口舌を以て位ひ我上
ゐあり且又素性卑賤の者也。ゐをうまゐ下ゐ居る事
を恥ぢいうゐもして藺相如をころさでやと思ひつけ
怨らひけるゐ藺相如ハ。是を知て更ゐ出合ぢ廉頗
先ゐ見めをべ。道をうへてゐくをける又廉頗と列を希

ふ事をせをぢ。人皆いをくく藺相如ハ臆病者ゐて廉頗を恐
をて行合ゐらぢとりふ藺相如。是を聞ていたく我秦の
始皇趙王を恥うをめんとぜらをて我ゐへりて秦
の始皇を恥うをめたり。況や廉頗くらいゐ恐をんや。
是ゐん子細あり。さしも恐ろしく強き秦の國より
も此國ゐ。手ごを事の叶ゐぬハ。廉頗と我とある故也。
若両虎戦ふゐ於てハ。二ツあぐらう死をべし。二ツあぐらう死
をる時ハ。猟者の得物とあるべし。若我と廉頗とを
ゐたゞ。一定二人あぐらう死をべし。二人あぐらう死をる時を
秦の國より軍卒来りて趙の國を討取べし。然る時

ハ趙王のあんぎ。万民の大災ひとある也。何ぞ私しの恨みを以て。國家の大事を忘れん哉と申されけるを。廉頗是を傳へ聞て大ひに耻かしく。思ひらづうう藺相如がりとふゆいて。もも大ひにある。あやまりをせんとある。りゆるしゑへと申びいと致しけるを。互ひに夫より打とけて。中よくあり國家大ひにおさまりて。上王公より下万民に至るまで太平のよろこびを致しける。

とあり。一切の臣下たる者ハ勇猛相如の忠義なるべし。一千余年の今に至る迄一切諸人の軌範とある事ハ臣たる者の大ひなる天下にあまる仕合也是ふかの例

一切の臣下たる者ハ少しも我身の為を思ふ事唯主人大事と忠義を尽し。國の為民の為を思ふべし。是天の御心ふ叶ひて其身も長久子孫も繁昌ある也。

秦の国より趙の國へ申し越たるハ。卞和の璧を十五城と易んとしの。是ふかつて藺相如ふ持せ遣ハ候所始皇玉ハ取たれども。十五城ハあとさぬ様子ふ見へ。相如ハ傾智を出して。其玉ふハ少々きずあり。為めなべし此方へかへしゑへと取戻し懐中して流石ふあそろしき。始皇を大ひふ耻しめて。璧を持てかへりしハ大智大勇といふべし。中々廉頗あどの及

ぶ所ハあらじ。國ハ大功ある臣下也。尊むべし主君も
大切ハ考ふる所也。國の大寶也

○たとへ一軒の主人たりとも家来を我子のごとくハ
思ふ所也。決して蠱未ハ思ふ所ならじ。然まども。あま
りまろき子ハ勘當もべし。是ハ家のつめ子孫のため也。
家来もあまり悪性いとまを法ろまもべし。よき人
の妨げをあも事ありて大ひまろし。然まども十分ハ
よき人ハ稀也。先ハ六分ばかり四分まろき人ハ使ふ也。
段々異見を致し抑き直しくして仕ふべし。少々ともよ
き事をいさしあば。ゆめてゆゆ折節ハありびも悪ハ

さしし。よき人とあるゆうハまべし。人ハそだてゆうハ
よき人とある者多し。上ハ立つ人ハ下ハよき人の出来る
ばかりハ心がくべし。あも誠の仁者といふ。先始めハ賢忠
孝賢仁義を行ふ人もゆめて法ろし。又時ハよつてを
ありびも法ろもべし終ハ誠の忠義孝行の人とある也
し。始めらよき人ハ希也。よきあしへを受て。よき人とあ
るもあまとあり。又一ッハ主人のつひゆうハよりて。よく
も悪しくもある人あまば。主人の使ひゆうも大事あも。
又主人何ゆゑ慈悲を以て使ふとも性得の悪人あり
是等ハ配下ハ置ならじ早々いとまを遣ハも也し。

いづまゝにをひを引出を人あり。又人の悪を見て恐を。人の善を見て進む心ある人ハ善人あり。よく教えて使ふべし。よくをしへてつゝへを。段々とよき人となるべし。又善を見ても進まぬ。悪を見て恐をざる人ハ悪人あり。いづまの道ハも賞罰を正しくして。善ハ進ミ悪をおそるゝやうハもべし。賞罰正しからざる時ハ。悪人ハ山事をいゝ偽りの訴訟をして。善人をくるしめることあり。善人ハ途方ふくまして手足の置所あし。悪人ハ弥々時を得て危うき事をも為て見るものあり。是角賞罰を正しくして。善人を助け悪人を罰して。善ハ進

むやうハもべし。若賞罰ハ依怙ひいきあ有て。當らざる時ハ。善人善ハまゝまむ。悪人ハ悪を恐をべして。弥々悪をあ為者あり。夫ハて國家ハ治りがたし。是ハよつて賞罰ハよくあたるやうハもべし。初めハある貞觀政要の心を能ちる為し

○和論語四ハ。藤の廣光公のいはく。今の世も聖代の如くハあもべき事安ある為し。皆もべて欲深き世の中あもべ。仁義を忘をたり。然るハ欲の釣針をさげて是を釣らんハ悉く釣得て。聖賢の田地ハ引いをて誠の君子國とまきんハ。七年の内ハ其功を見るべし。先ッ国々ハ

仁義ある奉行をいざし忠義孝行の者並ニ家業出精ある。家をよく治る者あらば申〻達もべし〻と。ふを流〻少〻も忠義孝行家業出精の者あらば。其所の秀たる者と評儀あて。録をあたへん時。あの大欲無道の者ども此録ゐ預らんと。晝夜二六時中ゐ。似せ忠義似せ孝行をあし〻て。録をむさぼらんとする時。奉行様々ゐ評義をあて。似せゐあり共忠義孝行をまるらとりふて。是ゐ褒びを也し〻。録を与へあば。始めハ似せ物あ也共。此事人々の骨ゐ徹し〻人の交りも正しくあつて。親を蠱末ゐする不孝者あ〻。君ゐ不忠の者あ〻。又ゐ交るゐ偽りの心あ〻。日々ゐ仁義の人出来らんたし〻へば是ゐ國郡をあこへ。天下をもづらんとりへども。道あ〻あるハ受ドとりふりどの。賢人出来らん。今のごとく賞ハ少しも有〻し〻て。罰ぞうりを行ひ罪ぞうりをよく立て。首をきり。所々ゐさらもとも。民ゐ恒の産あけ也ぞ。恒の心あし。恒の心あき時ハ疲もてる馬のむちを恐るざるがごとし〻とゐり是ゐ相違あ〻。少〻も善詞を以てやめ。又ハやうびを遣もべし。左もなくバ善人ハ多くあつて世界ハ自然と安泰あるべし。若悪人ハありを罰し〻て善人ゐ賞あき時ハ。無智の善人ハ善心を失ひ。善人ハ増々あくあるべし。善人あけもて世の中ハ

安泰ゝ治うゞヒ是ゝよつて賢忠義賢孝行ゝも折節襃
びを遣ゝもべし。然らゞ賞も罰もありて。諸人大ひゝ
善ゝ進ゝ悪ハ自然と耻るやうゝあり。悪事をまゝる
人もあくあるべし。一切の人の心をうんがへ見るゝ真実
心ゝ忠孝仁義を行ふ人ハあるあり。大方の人ゞ似せ忠
孝似せ仁義あり。是を真実心ゝ行へゞ。夫ゝどよき
とハあけまつゞも。中以下の人ハ左様ゝハ参りがヒ。末
代悪世ゝまゞバ。人の心も世ゝ従ふまて。大ひゝまるくあつ
たり。此故ゝ忠孝仁義を真実ゝ行ふ人まゝあり。然
りとゝつて忠孝仁義を捨てハ猶まろし。是ゝありて

忠孝仁義をありゝも似せゝも行ふべし。ありゝも似せ
ゝもあとあへて。夫ゝ相應の福徳ハ天より下さるべし。
此故ゝありゝも。賢ゝも忠孝仁義の善道を行ふべし。
是君子善人の仲間内あり。末代悪世の上々人也。智者
是を考へ玉へ

○善事ハ。真似ゝありとも。まるゞヒ。いつしゝあるべ。誠ゝあるべ

○真似ゝ。主人ゝ忠義。親ゝ孝ひとつのまれバ。本真ゝあるべ

○忠孝を商賣とまて。つとゝあゝ。末ハ黄金のかまゞ。志ゝうゞん

此等の歌ゝて。似せ孝行。似せ忠義ゝも。利益あること
をまるべし。是ゝよりて和論語の通りゝとしあゝ。忠

晉の文公ハ勇猛トリハ
忠臣カリ虚子羔トリハ
賢人を奉行ハ勤める
所又藺相如の所ヘ廉
頗トリハ勇士ハあやまり
ハきたる圖

義孝行の人も多く出来て世の中い大ひふよくあるべし。
諸君子如何思ひたまふや御引簡乗りたし

○或國の大守鷹狩ふ出ふひし時。老母を背負ひて。過る者あり。大守是を見ふひて。あきい孝行者と見える。やうびを遣ふもべしと仰せありけもべ。御近習申し上るゆうい。あもい平生大不孝者あり然もども。大守の孝行のりのふい御やうびを賜ると聞て。今日たちり老母を脊ひて。孝行の真似をして。やうびをむさぼらんとする者あり。夫して御やうびい御無用ありと申し上げもべ。守又名主を呼出して。問ふふ又名主も右の通り申し

上たり大守是を聞てのふふゆうい世上ふ悪しき真似もるりの多し。然るふのもい真似をもる者あり。是孝行の人ありとて。御やうびをふまるりぬ。大守の仁德ふくんじて。ふの孝せ者も波の孝行人とありしとありこも今の和論語の手段と同ト事ありてよき方便也上たる者い此方便を行ひて愚民を善ふ導くべし。○よき事も真似ふありともまるがよしいつしらあもて誠めどある

ふ相違あし。真似ふありとも偽りふありとも。善事いいもべし。ありふもよきことをもた。福德を得るふ相違あし。情断ふも偽りふも悪事をもた。罪を

ることうたがひあり。たとへば盗人の真似をもるものい
盗人あり。博奕打の真似をもる人いたくちうちあり。
常談ゐも人の物を取もつぱ。御上意といふ聲がかりて傳
馬町の牢へもいる。心い善ゐ〳〵て盗む心いあけもども。手を
出して常談ゐ取て見たもうりども。牢へもいつて打首と
ある。うそゐも偽りゐも人の物をぬもうていたまうゐ
い。言訳い出来ぬ何でもあれども傳馬町者打首とある
うそゐも偽りゐも。人の家ゐ火を付たい。火あぶりとある。
心い善ゐ〳〵こ誠ゐ火を付る心でいあけもども。常談い
火を付て見たもうりども。火ゆゑりの罪いのがもあるし。

私い火を付る心でいどざりませ彌ども。常談ゐちものつど
火付の真似をして見たもうり也。何卒真平ゆるし下
さるべしといふても申し訳い立がたし。どゐでも火付
ふり者あり善事の真似も又此通りふり情断ゐも人
見せゐも善事さへもてで天より福徳をいたゐあゐ也。
是い身ぶり仕方ゐ付たる所の徳あり。是を作業如
法といふ。心ゐうまもぎゐ。身の行ひゐ付た所の吉凶禍福
あり。身ゐて善事をもてば心の悪ゐあまもたと福徳がき
たる。身ゐて悪事をもてば心の善ゐあまもたゐ
ひゞ来るあり。是を作業如法といふ。作事さへ法のごく

ふまもさで心の悪ふあまりたふ。福徳ゞ来るあり。為事ゞ悪あまさで心ゞ善ありといへどもまざちひゞ来る。今の盗賊火付のたとへあてよくあるべし。又米をよけいふはく者ハ。賃銭をよけいあとる。又心ふ賃銭をよけいふやしゞも共。身あて米をつゝぎまゞ賃銭ハ一文もとりがたし又心ふハ細工をよくして賃銭をよけいふ取る心あれども。身ふ其業をぜざまバ。賃銭ハ一銭も取りがたし心あて賃銭を取る事ハ出来がたし。唯身ふあも業ふて賃銭を取るあり。何ゞど志ゞよくても。志ふ賃銭を出も人ふし。志しハともゆを米をよくつき。細工をよくまもゞバ賃銭を沢山ふ取つて。妻子けんぞくを養ふ事うゞひあし。是ハ米舂細工人だりの事ふあらず。一切皆あくのごとし。是を作業如法とりふ。作事さへ法のごとくふまもゞバそもあて物ハ成就して。世の中を安心ふ暮もあり。大方の人ゞ心さへよけもゞバ。よいと思あて居る人多し。身と心との訳をもらぬ故也。身と心とのぜん悪をもける事ハ長けもゞバ爰ふ記しがたし。六編をまつ爰に

○孟子彭更ふ問ていもく。子ハ志しふ食ちもるゝ。功ふ食ちもるゝ。彭更がいもく。志しふ食ちむと。孟子の曰。

此の人あらゝん瓦をゆぶり墁を畫き將の食を求んこと。子是の食ものんゝいもく〳〵吾。然るときんころざしの食ものるのあらじ。功の食ものるありといへり。此心い孟子彭更の仰せられるゆうい。子いそろざしの御食をくるせるゝ功ある者の御食をくるせるゝと。問へんば。志しの食をたべさせるといひけるべ。孟子のいもくたとへた。大工職人あつまの用の立つ仕事いせぞして。瓦を破り堀の墁書をもて。そして賃錢を取らんとせば。其方い遣りもだきや。夫い何しの用ゆるだきや。ゆりいせぬとの。然らば志しの賃錢をゆるのあらむ。用のたつ仕事をもるのよつて賃錢を遣るもとりの事也。是を以て身をつとむる事者入用を知るべ上々の君子も身心共のよけもども。中以下の小人い心逆よきとといふのゆきがさ。先身をつとむる事を第一ともべ身をつとむるのよつて。福德も相應の来り。世の中を安心のくらもあり。大工左官車引一切の日雇人等い。勤め働くのよりて。今日を安心の暮もあり。若身をつとめさるべ。今日ぐくらしがた。然るを心さへよけるべよいと思ふ人あり。是身心一躰の事をもらぬ故也。又身心共のよけもべ。夫ぞよい事いあけもども。愚人下民も左様めい奈りがさ。先身を

つとむる事を第一とすべし

○孟子のいはく子。堯の服を服し。堯の言を誦し堯の行ひをなすべし是堯なり。桀の服を服し。桀の言を誦し桀の行ひをなすべし是桀なり。此心は孟子專文の告ゆへ。大聖人堯帝の真似をする者は堯と同じ。大悪人桀王の真似をする者は大悪の桀王と同じ。是也。こゝをよつてよき人の真似をして。よき人のまねを教へゆへ

○詩經にいはく。不知不識帝の則に順ふとなるも爰いとあり。似ぜ忠孝似ぜ仁義をして居る内に。吾

ちゝ也ふ賢人君子の田地に至るといふ事あり。又誠の心より忠義孝行をなすべし夫をよい事はあけをどる。小人愚者は忠孝に大利徳あるとをもうとちがひ故に。真実の忠孝は出来がたし。是によつて真似にあるとも。忠義孝行をせよと教ゆるなり。真似にあるとも忠孝をなすべし。夫相應の幸ひが来るなり。是によつて小人愚者は真似にあるとも。善事をなすべし。真似にも悪事をなすべし。其なぜなれば。真似にあるとも急度来るとなるべし。又學問といふも。聖人君子よき人の真似をする事なり。學文の學はまねびといふて。聖

人智者の真似をする事あり。真似を為て居る内に。いたとあく聖人智者の田地に至るあり琴三弦も手習も劔術も初めの内は。皆師匠の真似をして。後は師匠のようふあるあり。又中は師匠より上手あり天下無双の達人と為りて又人に教ゆる事もあり。是ふ初めを師匠の真似をして。後は誠の上手とあるあり。是外の事ふあらうまでよい人の真似をするようてあり。よい人の真孫をぜひまでは。無藝無能の愚人あり習ひ覚へ経ハ始めぬ。あらわぬ藝ハ出来ずとし。是ふよつてよい事の。真似をしこよき人とあるべし。福徳を願ひぜして来るあり。若又悪人の真似をもまた。悪人とあり人ふ憎まれ。福徳を失ひ貧乏難儀をするあり。又至りて大悪の真似をもまた獄門ものり身等の現罰を蒙りて。一家一門の顔よ悪し太代迫の恥辱あり。是ふよつてよき人の真似をして義禮智信を行ふ末代迫も賢人智者の名を残を為

○福山侯の藩中ふ。太田全齋といふ大儒あり。此人のいろく學文といふハ倍ふいふ真似をする事あり。何を真似をするとあるべ。善事の真似をする事也。善事をするハ此真似より入事也。たとへば劔術を習ふ者ハ。先

師匠の木刀のとりやう足のふこやう。かけ声迄真似をして。上手ふるるあり。初めのうちハ。真似をするけれども。いつの間ふらハ我も為らぬ。人をまるまやうふるるの也。夫から段々と出精して。上手名人とも成り。又人の師匠とも成るあり。是ハ叙術だうりふあらば。諸藝を習ふも皆かくのごとし。始めの内ハ皆師匠の真似をして。後ふ本真の上手となるあり。此真似を出精する時ハ。後ふハ我物となる。此故ふ聖人の道も真似を貴ぶなり也。よき真似をして。よき人となるべし。然るふ此真似をよからぬかたへ用ゆる時ハ。悪人となるたとへを。叱りの真似をする者ハ。必ず叱りとなる者也。若どりとふつたる時ハ早速元の言葉ふ成りがたし（もしどりとなる時ハうたいをうたふ）。善ふも悪ふも此真似より入事あり。然れども善と悪との差別をよく為りて。善の真似を致すべし。悪の真似ハ決して致さるべし。善事の真似をする者ハ。天より福徳を下さる。悪事の真似をする者ハ。天より災ひ来りて。家を失ひ身をほろぼす。此事をよく為りて。善事の真似ハ急度致すべし。悪事の真似ハ少しも致すべからず。世間でよい人をやとふ所ゲ。大方ハ似せ忠義似せ孝行似せ善事也。中以下の人々ハ是ふて善人の仲間

内也。一生安心ふ暮を事疑ひあり。又誠の忠孝善をもも
べ夫ゝどよい事ハあけもてども。左様の人ハ至て希也。千万
人ふ一人もなりがたし。こゝをよつて賈忠孝賈善事をひ
ろとせよと勧むるあり。又賈忠孝賈善事をして
居る内ふ大上々吉の善人とある人もあるべし智者
是を考へ弟へ

○爰ふ大悪人。善人の真似をして。大善人とあり幸ひ
を得たる人あり。昔し駿河の國ふ今泉五郎左衛門と
いふ者なり。親を大孝行ふして。朝夕父母ふ仕へ奉る
事。よの常の人の中々及ぶ所ふあらず。此事ゞ御上へ

聞へて。感心遊ばされ。御ありびとをして。よき田畑九十石目
其外金銀等数多下し置さる。此子孫今ふ駿州ふ
あり。両親滅後ふハ。両人の姿を繪ふ写し。床の間ふかか
けて。在ゞごとくふ晝夜尊敬し奉る。尊圓法親王との
繪を見ゐひて。○仰げ只うつし繪ちぐら。父母の外ふハ
ならじ。神も佛も。と御よし遊ばされたり。誠ふ大孝行
の人ふして。天の加護ふ預り天禄を得たる人あり。是ハ
天性ふして一際勝れたる誠の大善人あり。又其村の百姓
ふ大悪無道の者なり。常ふ大酒を好み。ざくちを商賣
ふして居る者あり。ある時大ひふざくちふ。打ちけて

若干ハ身心共ふるけもた
中人以下大工左官車引一
切の日やとい人等ハ勤をき
らくふよつて今日を安
心ふくらを若身をつと
めざるを今日が暮しが
たしー下人ハ働く事をす
ーとをべー　わるくふ追付
貪乏ぶしーの諺ふてを
よくをるべー

まべきゆうあり。此男一人の老母を持り。母ふりふゆうた。當村の五郎左衛門ハ孝行の徳ふよろて。御上より大分の御褒義を頂戴りさーたり。我等も此間ハ仕合ろくしてぞくちふさへ打まけて。まべきゆうあー今日より孝行を致ー御上より御褒義を貰ろんと思ふあり。母も我せがをこそ誠の孝行りのみて。晝夜大切ふ大孝行を致もこと。人々ふめくり傳へてふをなるき御上へ早くもをるゆうふまへー。我も又心をつけて孝行を致まべき間。隨分と御上へ早く聞へるゆうふまべーとりふ。母の心ふ思ふゆうハ。なのごうらく者め何をりふゆうとそ思へども。あーめらぬ事あをた。夫ハよき心得也。我も其心あて我むをとあそ。大孝行者ありとふをなるくべー！りふ。此男是より嚴寒のさむきふも雪をふみ分けて。竹のこを求むるの思ひをあー。九夏三伏の暑き日ふも耕作を致ー。家業を出精ーて。母を養りん事を思ひ。母の口ふ合ふりのをこーらへて差上。孝行の真似をもる事既ふ一年半ぞくり也。ある時むをこ母ふりふゆうハ。我等是ゑど迚ふ大孝行をもるふ。御上へ聞へぞるハ母のふをゆうのあき故ありと。らくとけをバ母のいらく我もかくのごとく。孝行をよくもるとふをなるきけをども。未だ御上え

きこへざるハ。時の至らざる故なりといへど。むもとに聞て是
ハ名主が取上ぬ故ぞ。御上よりも御ゆるびあり。然らば
名主の所へ行てさいそくもべしとて。早速名主の所へ参
り申すやうハ。我等去年より母ぞ孝行いたし候得共。御
身達が取上げゆるぬ故ぞ。御上より御ゆるびあり。若取上
ゆるもそ。自らら訴へ出べしといひてうらをいかりけもと。
名主申すやうハ其方誠の孝行あらば。早速御代官様へ申
し上る筈なれども。御褒義を貰ひたんが為の賃孝行なる
ぞ。御ゆるびありて後ぞ不孝のふるまいなる時ハ。もとら
御上へ申し訳なし。夫故ぞ御上へ申し上がたく候や

りへと。むもとに聞て後々ハ夢鄙ゆ不孝の振舞もべうらぞ
といへば。然らハ今一年も孝行を致もべし。其上ぞて御
上へ申し上べしといひてかへしける。此むもと是より猶
々懈怠なく孝行を致しけもと。捨置もぬゆうぞあり年
寄共打集りて評定致しつゝぞ御上へ訴へけもと。早
速孝行の御ゆるびを賜ひける。是より誠の大孝行者
とありて。一生母を大切ぞいたし。近國ハ勿論遠國迄も。
大孝行の善人と名を揚たり。是始めぞハ御ゆるびが
ゆへ。さぞ。その中の大うそ。似せの中の大賃ぞ共。後
ぞハ誠の大孝行とあつたり。是よき真似をもとべよ

き人とあるもゆうこあり。此人此前の人めてよくもるゑ
ゑ〜〜。よき事ハ。真似ふあり共もるゞよ〜いつしふ
あるて。誠ふどあるふ相違あ〜。さるべ賢人君子とて
別ふあるもうたる人ふ所ゝぞ。始めハ九人あるを共。善人の真
似をひさとして。終ふハよき事ゞ我物とありて。賢人君
子と天下ふ名を揚。ゆまを後代ふ残を者あり
○叔親孝行ハきゝと致もべき筈の事也。儒ふハ
孝ハ百行の本至徳の要道ありとゝへり。三皇五帝
周公孔子ハ唯孝を教ゆるを本とせり。佛經ふそ。
孝養父母奉事師長ハ。三世諸佛の淨業正因ふもて

成佛の本源也と說玉へり。儒道佛道共ふ孝行ゞ最
上の福田の来る道也。其次ハ師匠を始め我より目
上年上の人を尊敬せよと教へゆふ。是ふよりて孝
行ハ。人間第一ふ行ふべき筈あり。又女ハ男姑めふ孝
行もべし。ちうとめふよく孝行もを。實の親え
も大孝行とある。是ふよつて女ハちうとを實の親よ
りも孝行ふもべし。然るふ何國ふても嫁とちうとめ
りど中のるゝい物ハあ〜さを共實孝行をもて後めて
大孝行とあつたるよめあり。近頃大坂ふよめとちうと
めとの大中るるつり。ゞゞ也もゞゞあり。よめもよめ

あり。鬼だてゝ鬼よめの寄合也。毎日〳〵の大ぐんくる。近所隣へもいぐゝ合の聲がきこへる。近所隣でもあききめへつて挨拶ゝ行人もあゝ狂歌ゝ○せりくゝとよめゝをゆでるゝ〳〵だゞ。こふいのふそふでへあいと。何をたてもあんくせを付て。よめをいゞめるゝらしだゞあり。よめも又煮たも焼たも。くゝまるよめ！あゝ〳〵。亭主でも。ふそつけるとりゝ女あり狂哥ゝ○祝ぶゝ。鮨四五盃茶碗酒。奴こめきたる。女ありけゝ。と云ゝ物あり。中々以て男まさりの強情者あり。此女ゝ伯父ゝ醫者を業とする。篤実の學者なり。よゝ

とゝうとめと中のゝるいとをきいて。いつぞよめゝ異見をいゝたんと思へども。よい時節があゝていまぞゝ居ゝ。又或時よめとたゞゞと。大げんくゝをゝよめが思ふゝ所詮此家ゝ居りがゝし。だゞが死ゝで去まつたゝよかろうゞ。さもあゝたゝ。所詮居りかたし。いのゝゝせんと工夫をゝて見たゝ。よい思案も出ゝ。是ゝだゞを殺をより外ゝ仕方あゝ。夫ゝ毒薬が番也。是を伯父の醫者ゝ頼めゞ。早速調合ゝてくゝるゝゝ。きゝ事と。思ふゝゝて。彼伯父の所へ行て申やうゝ。父〳〵御目ゝかゝりませぬが。御きげんやうゞざりまを

ゝ。少と折入て御頼申度事ゞあり候て参りまして。何卒御聞届下さるべ。ありがたく存じまもとりふ。伯父ゞ思ふゆへ定めて忠うとだアるとけんくるでもしてきつであらふ。よい幸ひあり異見をしてやりまぜうと思ふて。女の顔を見まゞ眠ゞ血だらけて居る。中々異見も関ぬやうまあり。先何ゆもいまゞ頼こたいとハ何ごとあるぞとりへゞ。よめのいまく。外の義でもござりませぬゞ。御存じの通り私ゞ忠うとだゞハ近所近邊で名取りの悪人鬼だゞと名の自さまる者でござりまゞあの内ゆへゞふ忠でも居りがたし。所詮だアるをろもゞ。私ゞ家を出るゝ二ツ一ツもあり。何卒だアるをころしてたまいとうござりまも。切殺しても井戸へ捨ても是を殺ししゞ忠まて。御仕置ふあるハ忠てこと事毒薬でころだで。人も忠るまいと存じまも。是ふよりておまへ様を御頼こ申し。毒薬をもらい夫をのませて人忠ゞ忠ろ忠て忠まいとうござりまも。何卒毒薬を調合忠イ下さりまゆといひけまゞ。伯父ハ不届千万憎いやゝとハ思へども。今あらだて忠ろ。何様の災難を引出さんも忠まゞたゞしと。心を忠ゞめて。謀計をあさんゆハ忠ゞと思ひ。夫ハ尤千万隨分毒薬を調合して遣りまアるし。

一服のまるべきところ、と死する事疑ひあり。然るども此藥あり毒いきあるる。先百日が間よく孝行をして。何もあもむ所の仰ふ隨ひ。年寄の口ふ合ふ物を調へて差上よくきげんを取て於て。其上あてのまぜると只一服あてころりと死る。是い詰合あり。是ふよりて百日が間。何様の無理をいひ無ふとも決して背くこと あるる。善悪是非をくわり見ず。ないくといふて。あらそ事ども何事ふもまけて。藥和ふ御心ふ背うぬやうよまべし。其上あて毒藥をのまぜると。何の疑ひもあく鹽和よく呑ゑくして。直ふころりと死するあり。

今直ふのまぜる時ハ。藥の利もまろし。若又疑ひのまざる時あへ大六ゑしあり。是ふよりて先立帰くて百日が間よく孝行を致まべし。何でも母の口ふ叶ふものを拵へてあるまひ。万事母の心ふ違ぬやうふ。致まべしといひけまべ。嫁ハ大ひふよろこび。左様あら百日が間ハ急度孝行致しまま。百一日めへ。早速毒藥をのまぜてところまて下さりまぜといへど。伯父ハ承知々々其時こそハ願望成就まべし。早く帰りて孝行せよ。畏りまゑ。うまいくと舌打して悦びいきんで。我家をさして帰りる。其帰る道あて思ひけるやうハ。伯父の所ふ

長居をさせず。定めて去うと度は何所へうせあつた又おきゞ事をするくのひ。そしりて居ると見へたり。憎いやつ。おゝと腹立て居るハ去てと事。夫をゆるしけるゆへハ日頃好ふ酒を買て帰りませう。次手ふ豆腐も買て進ぜませうと。よい酒を五合ふ豆腐を買て帰るとたゞ一ハなんの条。上り口ふきせるを持て。ちやゝかまへて居る。又何所へうせあつた。あるゞ事をそつて居るとこゝ。若うへ川たら此きせるゞぶつと〳〵ぶちのめし。ひとのものふなにもさんと。腹立て居る。所へよめゞ帰て来ゝとゝ。ゝさい何所へのきやつ。久しい間の事ぞゝゞと。あゝ付

やりふのひらをゝゞよめハ心を去ゞめ。私ハ買物ゞあつて近所迄参りまして。大きふ遅くありまして。今宵ハなまりあさむいうと。御酒を一口買てまいりまして。なつゞんあつて上ませう。又御歯ふ合やりふと思ひ豆腐も買てまいりまして。先々御上りあさまゞと。豆腐を煮るやう。あんをするゆへ。いつふあい打てあつて。きゞんしてる。ちうとゝ夜も帰て来ちう何でも目玉をくゝませ。おもいきいふふてやうふと思ひしふ。酒をあつて来たれ。豆腐をあつて来たのゝ。いつをてハ天も力もあくあつさ。大ひふ築和ふあり。下地ハ好也御意ハよう。そゝハうく買て来て下さゝてゝ。ゞれ

ぞを一盃のまぜうと。いつふあいきぐんとあつた。其内豆ふも煮るめんも出来と差出ぜば。是へく〳〵ありがたい。歯があいうち豆腐がいつちくいよいと。飲ぞりくれたりあて。夫うちよめめも一盃のまつぜいと。いつふあいよめと。ちりとの盃の取うもし。母い大ひふよろこびゆるくとのんで。今宵ハ酒をのんたら。惣身があてあふあつさもウ祢まどりとい

まるるあらしと。そんあつは休こあさ是まどと。いれふあい姑のふとんを去ぎ始めて夜着をきぜて上まれた。今霄いゆるりと休こあさ是まぜと。足の方を押へあり。背中をあぐたり。鹽梅よく去て祢さぜまし。左様あら御去づうふ出休こあさ是まぜと。ないさうをして外へ出て。そつと一息つき。やを先孝行の毒いこが一日まんが跡い九十九日とあれこ。先うをしやくと。あこを含んて我部屋あぞ入ふける。扨よめハあくる朝早くうら起て御飯をたく。ゆうを也。だアなハ不思議ふ思ひ。れでも三べんも五へんも。あこしてもないくとぷふて又ぐふくと寢て居た者が。今朝ふかぎりて。いつふないく早くあら起て。御飯をたくうらして。是ハ今迄十四五年も居るけを共終ふ。あこ一さを起て御飯を焚た事あし。然るふ今朝ふあぎりて。早くうら起て飯を

焚ハ不思議千万あり。是ハたゞ〳〵ゝ昨日伯父の所へ行て。大ひゐ異見をいゝもきゝてきゝとゝへる。叔母ゝつさとぶあれべある物也と肝をつぶして勘へて居たゞ。そゝろく起てよめ女早くゝゝゝ起て何をたくぞと問へゞ。是をお粥ゞゞゝまも。今朝ハおさむいゝゝ。あゝゝゝゐ召上るゆうゐと存じまゝたゝて。おゐゐゐゐ致〳〵まし〳〵たと云。おうゐハあまハよけもどゝも。外の者共ハ嫌ひあもバよ〳〵ゐせよといへゞ。いゐ〳〵あゝさへよけもゞ。私〳〵共ハ何ゞもゐまいませぬといゐゝゝ〳〵。夫ハ〳〵黍けあい。ゐもの朝ゝゝハおうゐゐゐもゐる及ゞぬ。あもゐゐあまもゞゐ。

皆の者のよいゆうゐもべ〳〵といる

此ゞゞゐも大きゐよくあゐた。此ゞゞゐもとつちめら逆ゝゐゐとそんゐ事いゐ女ゐあゝゝゞ。御飯をやもらゝゐたけといゐゐ。こゝくたいてこまる。一盃の出飯ゞあどがいく〳〵あゝく。何やどいゝもきくゝりのゞあし。ゞゐもとゝく〳〵いとゝまるゝゝゝ。御飯をたくもら水ゝげんハ。あもゞもゝるといゐて。水をたゞくゝとあへこんゞあゐゝのゝゝゝ。もをぬゆうゐ。たゝゞて人のいやゞるあい少〳〵もゝまゝゐんゞゐ。よめの方ゝゝ母ゐの御口ゐ合ゐゐゐあゝ。ゆもゝゝゝゐたくゝと其ゆうゐゆもらゝゐた

くふ及ぶぬあるまふいかまはるぞと。皆の者のよいゆうそ
まべーといふ。此ぞァ夏も大きふよくあつて。少しも見るい
所あー。是ふよつて下うらハ上の者のよいゆうふまべー。
よくてもあーくても是でも非でも。上の者の仰ふ隨
ふべー是ぐ人間の道也。是を孝悌忠信の人といふ。人と
して通ら行べあつぬ道也。是ふよりて何でもあぞも
ぞァ夏のよいゆうふまべー。ぞァ夏のよいゆうふまべ。家
内和合して福徳ぐ来ると云るべー。一切のよめたる者ハ
此道理をよくさつて。そうとの御心ふ叶ふゆうふまべ
ー。急度心得多へ

又曰。隨分と氣を付て御心ふ叶ふゆうふ孝行をまるふ
らーて。ぞァ夏も大きふよくあつて。よめハ夜ふもあまべやや
ーうふ。さあふを調へ御酒をふるまい。ゆるくのんで夫
うう寢道具を取出ー。ふとんを敷き足ふハ。たんぞをい
まてやり。天窓の方ゆハ屏風を立風のこぬゆうふーてゆる
めうて。ぞァ夏ハ甚ざよろこび。よめ女其様ふーて下さ
るふ。勿体あると夫ゆく巢和ふあり。よいぞァ夏とあつ
たり。よめハ足の方を押へぜふうを撫て。おゆるりとおやを
こあさまませといふて。其所を立出ると息を法いて。
先是で二日孝行の毒ひこぐまんた。モウ跡ハ九十八日とあ

つて。九十八日めめハ唯の一眠で。ころりといきさんと。一人笑て我部屋めど入めける。夫よりよめも毎日〳〵質孝行をあるさまで。ぞア夫もぞんど心が纂和ふあつた。何ふ所でも嫁と相談を致し。是ハどうぜう。こふちゆうと。たゞひふ相談をあるゆるゆりふあつた。よめも又似せ孝行をあて見せバ。いづこ合よりハ何ゆどう心持ゞよいろあるまゞ〳〵。いゞふ合ハ至てぜつあい心持もあるし。又人の見る目も恥ゝ〳〵い。親子中よく〳〵をゆど安心ふ者ハあ〳〵。又見ても見よい物也と思ひ。誠の孝行心ゞ起てきて。似せ孝行もいゝ本真の孝行とあつてきて。よめもよいゝ簡ゞ出た。

又ぞア夫もかりふもうそふも孝行ふさまるゝらして心持ゞよく〳〵あり安心ふあつてきて。今ハよめをいぢめる心もあく〳〵あり。前々とハ打てかはつて。今ハ佛ぞア夫とあつて。今ハよめゞかはゆく〳〵あつて。實の娘同前ふ思ふ所ある時よめをよんで。いまさるゆうハ。此ちりめんの小袖ハ地ゞよいゝらたそつてあいたゞモウまゝしもいらぬゝらして。とふくとふ進ぜる。常の寺参りや近所ハ花見ぐらいふハ。是をきるゞよいといふて下さまたサアよめふ真実ふ有りがく〳〵あり。誠ふ敬ふ心ふあつた。此間までハ鬼ぞゞの大悪人と思ひしゞ。段々と御いさまりて

預り。けつこうな縮面の小袖迄下さる御志しゞあり
がたい。今を昔しゝ引くらべて。佛けをアタとなげめるゆう
ゝあり。弥々益々真実を尽さるゆうゝあつた。又をアタも実
の子のゆうゝ思ひ。又よめも誠の母のゆうゝ思ひ。真実孝
孝行を尽さるゆうゝあつて。モウ七八十日も過たさを母も
よめをあつうしく思ひ。よめも又をアタを慈しくおも
ひ実の母よりも大切にするゆうゝあり。互ひゝ思ひ思
ひて。極々の中よしとあつた。今ハ近所隣りのゆうゝ
ゆめるゆうゝあつた毎日くけんくをだうりしてゞゝ
ゝが今ハ夫ゝ引くらべて中のよいことをとふるゝ物なし

今ハ佛達の寄合のゆうゝあつた。何故ゝあのゆうゝ十ゞよ
くあつさうらゆまさい事なく。近所近辺のゆめゞ也
ゆる時だアタ藏の角から黒塗の箱を取いゞ。よめゝい
ゝをるゆうゝ。是ハをしゝが大事ゝあておいさ。櫛笄ゝんぞし
也。櫛が二枚笄が二本簪が二本二通宛持て居を共モウをし
もいらぬゝらちてゞあさゝ昔進ぜる。ちあさの物ゝをるが
よい。女の所帯といふゝくしゝ笄簪だうり也。其外の物を皆
夫との物也。是ゝよつて此櫛笄簪ハ皆ちあさの物として置
べし。娘共が母をゝも。皆遠方へ縁付たうら何の用ゝも立ぬ。又
煩ひの時も遠方あをゞ。火抱の用ゝも立ぬと。兎角世話ゝあ

るハこゝに一人。何分ゝも老人の世話頼ゑ入と。おくそこもゝ
き挨拶ゝ嫁ハ。始終泪ゝくゞ。らまハゞア勿体ないゝ。ゝうと陸
の衣抱ハよめの役。御頼ゝくとも何の麁末ゝ致しませう。
又くゝありがいも何本もなまべ。娘御達ゝもおゆりあさ先
て下さりませ。私ゝ一人ゝりろゝ筈ハござりませぬと。泪だゝが
うゝいひけまべいやく娘どもハ相應ゝゆゝ川と置たゝら
ゆるゝ及ぢぬとゝ一人の物ゝさつせと。箱ぐるめゝ相
渡せゞ。よめハたくゝゝひゞ伏て。なりがさゝあらぎ雨のごゝし
身もらくぢりゝ流しける。是をどけつゝりゝ姑御をゝ
ぜ始めゝら孝行ゝせゝんたゝ。くゝゝゝゝゝ道理ゝり。是

より嫁ハ真実ゝ孝行を尽せべ。ゞア夏も誠ゝくゝあつて。佛ゞア
夏といふまで。よめも又佛よめといふまで。大孝行の人とハゝり
ぬ。扨ゝの伯父も内々聞合まるゝ。謀計成就ゝて。大孝行の嫁
とゝのたといふ事を聞て大ひゝよろこび。此上ゝ今一度紀し
置事なりとゝて。ゝのよめを呼ゝゆりけまゞ。早速来り。
伯父ゝ對面りとを。伯父申しけるゆりハ昨日迫ゝ百日孝
行の毒いとも相濟たまゞ。毒藥を持行。ゝうとゞアゝ
早速ゝのませて殺をべし。早くくといひけまべ。ゝのよめ
大ひゝ恐ゝて申しけるゆりハ先達てハ誠ゝまるい鬼ゞア
ゞゝ川たゞ。今ハよくゝゝゝり佛ゞア夏とゝたり。今ハ私し

を真実の根のゆゑに可愛がつて下さるる故に。中々どこに
そふなのつても。毒薬はふるまへませぬ。其義はあやまれる
て下さりませといへど。伯父のいはく。らやく其孝行は此
方に対まさるたしなみ似せ孝行あまたび。又跡戻りがしと役
に立ぬ。夫は兎もあれ汝どうしろへ手をまはせ。此細引
でひの縛り御奉行所へ引て行く。夫は又あぜどどうまも
ハテ知まつる事。そうしてあを毒薬にて。殺さるのは親とろ
しあまたび。礫にあるはなうまへ。夫に組して毒薬をと
る此醫者も同類あまたび。汝ど故に此醫者迫傑にあく
る。そこへ殺さるべ共其そくこをまつとうし。其罪はのがまつと

し。サア早くうしろへ手をまはせ。汝どを御奉行所へ引ま
行。吾もそめにそりつけにかることりへだ。よめは大きに御を
を。誠に私が不了簡故に。姑御を鬼だでに致し。おまへ様迫
罪に落さんとそこ。なやまり入まし。た。真平御免下さ
るべしと。ひとまつ詫を致しけまば。然らば此後弥く真
実に孝行を致し。そこへ何様に御無理をのひまふとも。
少しも背く心あく。竪が横だも隨ひ奉るべし。鬼だでう
誰がそこ。皆汝がそこと事也。然るに鬼だでの悪人のとるるく云
たるへ。汝どが大罪あり。此後は急と慎むべし。隨分心を
付て孝行せよ。此度の事はゆるし遣はすべしとのへだ。

よめも大きに悦びけるうあるとめ御を。我心より鬼
だぶ成こゝ大罪也。此後ハ何やりの御無理をいひ申ふと
も。少しも背うぬゆりふ致まべし。此度の事ハ何分ゆも。お
ゆるさまて下さりませといひけるバ。伯父も大ひふよろ
こびける。夫より後ハよめも大孝行の者とあつてよめあり
とめと。中よくくらし。近所近辺のゆめ事あり。後ハ
大孝行の事が御上へ聞へて御やうび迫頂戴致しなとのこと
也。是始めハ鬼だぶ。鬼よめの大悪人あるとも。伯父ふなま
さまて賈孝行を致し。夫うう段々とよき方へあもむきて。
後ふハ誠の孝行とあつたり。然らバ始めより誠の孝行が出

来ぐさき人ハ。先賈ふあり共孝行を致を爲し。夫うう段々
と誠の道ふ入るべし。似せ孝行似せ忠義も。なまり笑ひい
やしむべくらバ。是も誠の道ふ入べき方便あり。又智仁篤
實の人ハ一家一門ふあり共。又ハ家来朋友ふあり共。やしき
者也。家の助け。身の助けとある事疑ひあし。此よめも実
智の伯父あくんバ。あゆうし〳〵此よめも此伯父あくんと。
なア屋を突殺さるゝ。井戸へちめるゝ。毒飼して殺さんを必
定也。左まるとバ。姑しうめとろしとあり。傑ふうるハまを
ル事。未代迄も不孝の悪名を残し。其上めて無間地獄
へ落ん事疑ひふし。然るふよき伯父を持たる故ふ。姑め

も無事ゐて一生をくらし。我身も親孝行のよめとゝめらるゝ。
御ゆうび迫りらひしゝハ偏ゐ伯父のあるゞ也。よき人ハ一家親
類朋友家来ゐありとも。持うき者あり。身の助家の助と
ある事決定也哥ゐ○出ぞいうゞ質朴ゐ人を矢へて縁者
ゐゐまつゞ。後までもよゝと此うゝの通りゐ相違ゐ。一人
の身の上さへめくのごとし。況や大家ハ猶々よき人ハあくて
叶ハぬ道理ゐり。又よい教へも受ぞんバ。よき道ハ通りが
たし。一言の教へハ千金也一生の身を安んぜ。人学ばざるゞ
愚人也。学ぶ時ハ聖人ゐりよき教へを受て。大安心大福徳
の道をとゐりゐふ也し

○ゆうぶきゐ。人のゆゝしきゞ。あらゞゞて。人の悪しきハ。我ゐしきゐり
○平生ゐ。人を大事と交ゆるゞ。ゆるゞを厳末ゐもる人ハゐし
○いさゐいハ。実ゐ山彦のこだま哉。ゆるゞあゞまるゞ。向ふゐとゐし
是等の哥をよく心得て。人と交るべし。たとへ人様より何
ゞど悪しくあるゝゐふとも。此方ゝハ何分ゐも。巣和
ゐまけてくらまべし。是を孝悌の人といふ。人として通ら
ゐバ。ゐゝゐぬ道ゐり。ゆゞよきゐの歌。山彦の歌ゐて。よく悟る
べし。鬼角相手のもとまる心ゐるゞ。万事互ひゐ堪忍ゐ堪
忍をゐて。一生を送るべし。又ゐうとめハよめを實の子同
前ゐのゞまつゞ。決して厳末ゐ思ふべゝゞ。又よめハ身命

をあげうつて。ちうとちうとめ御を。実の親と思ひ大切ふ仕へ奉る事し。左もあるべし。実の親へも孝行とある。一切のようめたる者ハちうとの是非善悪をあくり見も。竪ゞ横ゞでも。何でもめでも。ないくとりのて急度隨ひ奉るべし。我身の難義を少しも思ふも。急度孝行致もべし。ちうふ心得あべ。ようめちうとうしへども。何ど中のわるき事なりんや。是又天地の掟ふてようめたる者の通るべき道あり。何事もあいくとしふて少しも逆らふも仕へ奉るべし。是ゞ福徳安心の来る道也。人として孝行の一ツだふなきゞ一切ふあしき事あし。人ふ隨ふ道ハ至て通りよし。人ふ逆ふ道ハ至て通りがたし。

然るふ人ふ逆ふ道を通りたがるハ。是本大愚大馬鹿より起りたる事あり。能々勘へて人ふ隨ふの道を通ふるべし。是智者聖人の通りあふ道あり。安心の大道あり人々此道を通りあへ人ふ従ふ事をちうぞんゞ身をおさむる事ありがてし

主従四編下終

弘化四未歳五月吉祥日

東京下谷金杉

安樂精舎眞鏡著

至從心得草初編　二冊
同　二編　二冊
同　三編　二冊
同　四編　二冊
同　五編　二冊

日用心法鈔初篇　三冊
同　二篇　三冊
同　三篇　三冊

東京書林
日本橋通壹丁目
須原屋茂兵衛